



上里善清 議員

◇道路整備
◇内間御殿の駐車場整備
◇西原町のPR活動
◇臨海地域の活用

工業専用地域の道路は、でこぼこで劣悪な状況である。町にとって税金収入である企業を育てる意味でも、道路整備は重要だ。早期の整備を要請したい。

工業専用地域の整備については、5億6千万円の予算を計上し、整備を進めている最中です。中城村に接する排水の整備が完了次第、道路・舗装・排水整備をあわせて進めていく予定です。西原町の自主財源比率を高めている一番の貢献をしている専用地域です。

他市町村では、様々なイベントやキャラクターを作成し、集客に力を入れていて、まちづくり研究会に検討してもらい、町も取り組むべきです。

マスコットキャラクター等を含めて、総合的な観光振興策を確立する必要があります。県下54商工会のうち、西原町は国商工会の指定を受け、予算を確保しています。民間地域が

町内の学級数が29ということ、2つの教室が特別教室を使って授業しているということだと

来年、入学してくる新1年生は何クラスの予定か。

今年と同じ29学級の予定です。6年生4学級が卒業しても今年と同じ学級数ということになります。現在の6学級の4学級が入学予定ということか、お聞きしたい。



全国で人気の熊本県イメージキャラクター(くまもんのHPから)

町内の観光名所として、内間御殿を位置付けていると思うが、観光客を呼び込むには様々な戦略が必要だ。イベントを実施するにも、バス車の駐車場確保は、どうしても必要であり、一括交付金を活用して駐車場の敷地を確保すべきと思うが、

町民の憩いの場又は観光客を呼び込むために、臨海地域を活用し、滞在型施設の誘致及びオートキャンプ場の整備を

10年間継続される一括交付金。各市町村のまちづくりへの情熱、政策形成能力、やる気が試される。①本町の抱える課題を包括的に整理し、交付金の活用を具体化した総合計画的な仕組みで執行すべき。②自治法の改正で基本構想の策定義務が廃止されたが、今年度制定された「まちづくり基本条例」は理念や原則を示したにすぎず、中長期的なまちづくりの方向性が見えない。

◇計画的な一括交付金の活用を
◇坂田小の過密化
~少人数学級に支障は~



与那嶺義雄 議員

一定の制約や財源の変動など厳しさもあるが、各部署の課題を洗い出し、交付金に合わせたものを年次的に執行していくことが大事では、今のやり方では、木を植えていくが将来どんな森になるのか見えない。本町が参考にした「まちづくり基本条例」の先進地二セコ町は、その中に総合計画をしっかりと位置付けている。議会も行政も住民も企業も5年後、10年後を確認しながらまちづくりをする、これが協働のまちづくりではないか。

中長期的なまちづくりのイメージがわからないという欠点は否めないが、4年スパンの実行計画を進める中で改善したい。沖縄県も20年スパンの「21世紀ビジョン」という総合計画を持ち、本土の先進自治体では、自治法で基本構想(総合計画)の策定義務の廃止後も「ま

町まづくり基本条例 実行計画(H24~H27)』



『町まづくり基本条例 実行計画(H24~H27)』



大城清松 議員

◇坂田小学校の過密化
◇県営住宅

昨年三月議会において児童数に見合った施設整備を計画とある。この整備が完了するまで今の状況が続くのか、お聞きしたい。

町教育委員会の計画では坂田小学校は今年度実施した耐力度調査に基づいて平成26年度設計、平成27年度及び平成28年度において現在の在籍に見合った規模の教室等を整備する計画で、国・県と協議する予定です。予定通りであれば平成27年度は仮設校舎での授業になります。

町内の各県営住宅における問題について、県住宅課に度々要望を出しているが進展がない状況がある。幸い高層では雨水排水の埋設部分の話まで困っている状況があり、坂田高層ではペランダ側公園にはしこ車が入れない状況があり、災害時に不安がある。町としてのバックアップを要望したい。

町内の県営

町内の県営

町内の県営



坂田高層住宅の園路進入口



前里光信 議員

◇民生委員の確保
◇虐待問題
◇南小区の児童館の件

民生委員と児童委員は大変大事な役割があるが、西原町は文教のまちとして誇りにしているが、この件については困ったものだと思つている。これらの確保の為にどういう努力をしているのか、お聞きしたい。

各団体からの推せん協力、広報による応募によって民生委員に平成22年12月1日付で行われた一斉改選後、諸事情によって

民生委員と児童委員は大変大事な役割があるが、西原町は文教のまちとして誇りにしているが、この件については困ったものだと思つている。これらの確保の為にどういう努力をしているのか、お聞きしたい。

民生委員と児童委員は大変大事な役割があるが、西原町は文教のまちとして誇りにしているが、この件については困ったものだと思つている。これらの確保の為にどういう努力をしているのか、お聞きしたい。

員数を埋めるまでに至っておりません。自治会長、民生委員児童委員協議会または社会福祉協議に推せんしたい。現在公募もしている最中です。

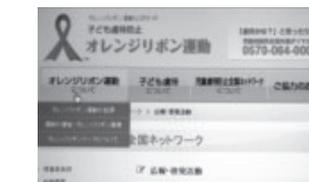
町内における虐待問題についてお聞きする。

虐待問題については、西原町要保護児童対策協議会、略して要対協が、平成23年度に受理し、支援をしているケースは44件です。

これは児童虐待については、そのうち育児放棄と言われる、いわゆるネグレクトが27件で、一番多く、次に心理的虐待13件、それから身体的虐待4件となっています。

いずれもこの虐待について実務会議を開いては、個別支援会議を設けて、支援あるいは未然防止などの働きかけを各専門員の皆さんの意見をちょうだいしながら取り組んでいます。

そのほかに、高齢者虐待防止に関する協議会があります。高齢者の虐待については年間約10件程度で推移している状況です。



子ども虐待防止オレンジボン運動HPから

これまでの基本構想的な要素も取り入れており、中長期的なビジョンが見えてこないのであれば検討したい。

県は次年度から4学年も少人数学級を実施するが、坂田小の場合は教室数が確保できずその実現が危ぶまれるのでは。

平成26年度に設計、27、28年度で現在の在籍に見合った規模の教室を整備する計画です。文科省の少人数学級は、新1年生を除いては空き教室がある学校を前提としたもので

町まづくり基本条例 実行計画(H24~H27)』